

荘内中学校におけるこれからの学力観（学力向上）

先行学習を重視することは、望ましい学びに向かう力の育成に成果があると考えますが、新しい学力観と現時点での高校入試に若干の乖離があるため、やむを得ず中学校における学力向上の取組は次のように整理されるものと考えられる。

単元総合テストの廃止による学力診断テスト重視への転換

試験期間の設定による1年生からの受験対策に向かう意識を醸成する。試験範囲はこれまで学習した内容であるため、スタディサプリ等のシステムを活用した家庭学習の取組を徹底指導する。（これまでの定期考査への対応のような試験対策ではなく、3年間、受験に向かう姿勢で取り組ませる。）
※国・県の学力学習状況調査は国が求める学力観の象徴であるため今後、一層重視していく。

学力診断テストの重視

生徒・保護者のシビアなニーズへの対応として、学力診断テストを重視し、各学年段階におけるテスト得点確保能力を把握する。
(年間実施回数：1、2年4回、3年6回、+メグビッド可能)

高校入試における学力検査については、各教科の筆記試験における得点で計るしかないため、テスト得点で判別するしかない。テストにおいて得点をどれだけ取るかについては、各学校の各教員の行うテストではなく、全国教育水準を満たした学力診断テストによる**得点確保状況を判断資料とすることが適切である。**（教員作成のテストは水準を保証できていない可能性がある。）

※「重視」とは、評価に反映できるものは反映することを意味する。

校内順位は意味の無い指針であり、得点確保状況のみが判断資料となる。

高校入試に必要な学力

高校受験

今後、高校入試もソフト
チェンジの可能性

知識・技能=見える学力

思考力・判断力・表現力等
=見えにくい学力

学びに向かう力・人間性等
=見えない学力

認知能力

非認知能力

新時代に必要
な学力観

学力向上

生涯学習

新時代に必要 な学力観

Society5.0時代の激闘する社会、改革されていく高校教育及び大学入試制度において必要とされる非認知能力を含む、新時代の資質・能力等を総合した学力であり、義務教育段階における教育改革の中で徹底して育成されるべき学力である。

各教科における適切な評価評定の実施
荘内まなびスタイル：先行学習を基盤とした協同学習

多様な学校教育活動
(課題解決学習型活動)

荘内まなびスタイルによる授業実践と単元学習計画の中で適切に評価した内容を活用することで学びに向かう意欲を醸成する。また、授業の中でアウトプットする活動を重視するとともに、総合や学活、その他の教育活動で課題解決学習型の活動を工夫することで新時代に必要な学力を醸成する。

主体的に学びに向かう資質能力の向上